

「白寿会」さんと交流をしました。(1, 3年生)

2月6日(火)午前中、1,3年生と地域団体の「白寿会」さんとの交流会がありました。当初は、12月に予定をしていたのですが、インフルエンザ等感染症の影響で学年(学級)閉鎖があり、2月に延期をしていました。当日は大変寒い中、20名の白寿会会員の皆様に参加をいただきました。ありがとうございました。

子どもたちは体育館で「はじめの会」をし、「白寿会」さんの紹介と3年生の児童代表が「延期になって残念だったけど、とても楽しみにしていました」とあいさつをしました。白寿会の会長さんからは、竹とんぼを例にして「遊び道具を自分で作ることの楽しさ、自分で作ることは新しいことに挑戦する勇気や自信につながるんだよ」という話をいただきました。

その後、1,3年生は3グループに分かれて、【けん玉・おはじき・だるま落とし・お手玉・竹とんぼ・コマ回し】の6種類の昔遊びを楽しみました。また、休憩をはさんで、3年生は、教室と図書室に分かれ、白寿会の方々から「子どもの頃の話」を聞かせていただきました。「小学生の頃はどんな遊びをしていましたか?」「好きな給食は何でしたか?」などインタビューをし、一所懸命メモを取っていました。

最後に「おわりの会」を行い、子どもたちの代表がお礼のあいさつをしました。

お茶の入れ方講座を行いました。(6年生)

2月8日(木)2,3限目に、6年生は「お茶の入れ方講座」を行いました。三重茶農業協同組合の職員の方に外部講師としてお世話になりました。「闘茶会を体験してみよう」という課題では、実際にお茶を飲んでみて、「かぶせ茶」「煎茶」「玄米茶」「ほうじ茶」「番茶」の5つについて、どれがそのお茶にあたるのか、種類あてに挑戦しました。お茶は、製法や摘み取る時期によって味が違い、さまざまな味があります。6年生が4月末に学校の茶畑で摘み取ったお茶は「かぶせ茶」の一番茶で、一番おいしいお茶だと言われています。芽を摘み取る5~15日前から、日光に当てないようにして作ります。

本校では、コロナ禍もあけ、地元のお茶産業について、3年生では、三重茶農業協同組合への訪問、4年生では茶業振興センターへの見学と体験、5年生では、お茶づくりについて学ぶ内容で、外部指導者の方に授業を行っていただきました。まだまだ学校として、内容を整理している段階ですが、各学年の子どもたちが系統性を持って、地元のお茶産業について学ぶことができたらと考えています。

今回の6年生の体験は、小学校生活において水沢地区のお茶産業を学ぶ最後の機会となりました。なかまとおいしいお茶をいただきながら、改めて水沢地区の良さを実感できる、楽しい時間を過ごすことができました。

中学校区 3校合同授業がありました。(6年生)

2月13日(火)午後、西陵中学校がメインとなり、オンラインで小山田小と水沢小とを結び、3校合同授業を行いました。「君たちはどう生きるか ~地域住民の1人として~」というテーマで、小山田地区、水沢地区の将来について考えました。

最初に、「自分の将来の暮らし 高校卒業後の進路について」アンケートを取りました。その後、今回の講師である名古屋大学大学院教授の方から講演をしていただき、小山田地区、水沢地区の将来の人口シミュレーションを伝えていただきました。講演を受け、自分の将来の暮らしについて考えたり、小山田地区、水沢地区の魅力について発見、再確認をしたりしました

水沢地区では、「水沢ワインプロジェクト」が立ち上がり、現在進められています。小中学校の頃から、自分の故郷(ふるさと)のことについて、しっかり考えることはとても大切なことです。活力ある活気ある町となるように、日頃から地域の行事に参加し、「出会い・ふれあい・語り合い」を大切にしてほしいと思います。 (文責 北住 昌文)

